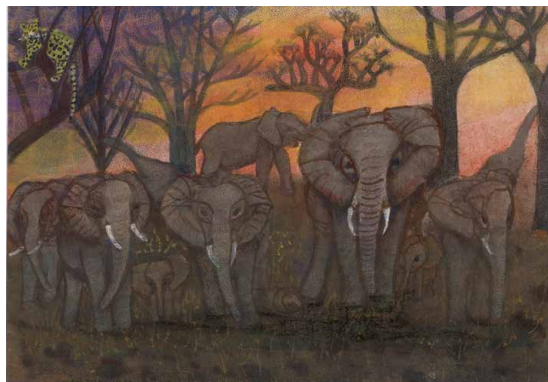
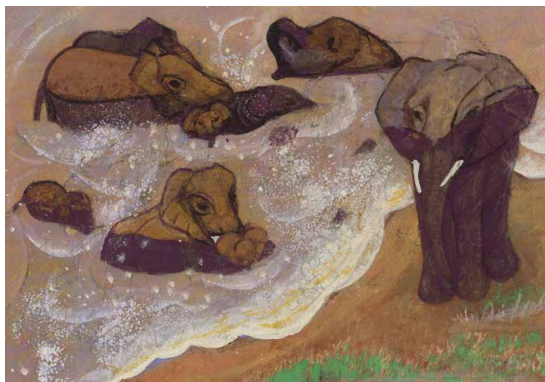
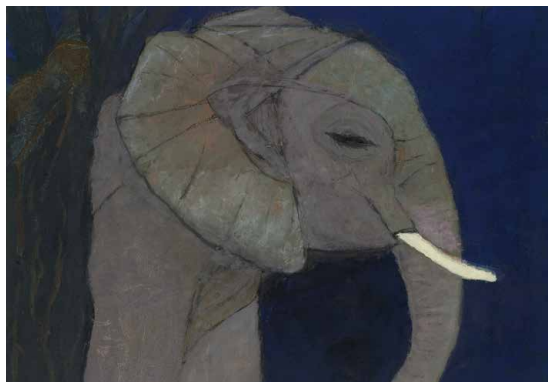




ビィ ビィ

なか はし ゆき こ
中橋 幸子



STORY

アフリカのセレンゲティ国立公園に、おばあさん象のビィビィがいました。雨の降らない夏の季節、ビィビィの群れは、水場を探して歩き続けます。ビィビィは遅れそうになりながら、何とか群れについていきますが、水場に着くと、危険がないかを調べ、群れに水を飲む許可を与えます。ビィビィは、夜もヒョウから群れを守りましたが、娘にリーダーの役目をわたして、群れと別れることになりました。それでもビィビィはたくましく生き続けます。



なか はし ゆき こ
中橋 幸子

主婦 京都府

受賞のことば

思いがけない賞を戴き感謝と喜びで一杯です。誠に有難うございます。この絵本は15年前娘に誘われアフリカで出逢った象の話です。

野生象に威厳や品格を感じ、日々の生活が知りたくて何度か訪れました。亡き夫に「象の生き様を書いては」と言われたことを思い出して書き始めました。書いてみると自分と重なるように感じました。

審査員コメント

力強い画力に目を見張りました。アフリカの地で生きる象の生命が伝わってくるようです。絵本としては、絵と文章のバランスがまだ取れていません。三場面目などは文章が多過ぎて画面からはみ出てしまいそうです。文章のスペースを意識してみてください。

富安 陽子